

日本記者クラブ会報

第144号
1982年
2月10日発行

東京都千代田区幸町二ノ二ノ一
プレスセンタービル9F 電話 100
◎ 社団法人 日本記者クラブ
電話 五〇三一二七二二(代)

会員千八百名を超える

うち外国関係会員は約百名

当クラブの会員数は、本年一月に千八百人をこえた。下欄に掲載した二月一日現在の会員状況にもとづいて現勢を分析すると、法人会員(日本新聞協会ならびに日本民間放送連盟の加盟社)は、当クラブが設立されて以来約百四十社でほとんどかわりなく、したがって法人会員一〇(三万円)につき二名の基本会員六百十数名も一定している。

これら法人会員に属するA(編集)B(地方在住)C(編集以外)ならびにD(OB、マスコミ研究者など)の個人会員数は、この一年間に五十名(五・五パーセント)ふえたが、もっとも伸び率が大きかったのは前記のプレス関係以外の法人・

個人賛助会員で、この一年間に八社(一六・六パーセント)人数で五十名(一七・七パーセント)増加した。また大、公使館、国際機関などの広報担当者から成る特別賛助会員も、昨年はじめの六十名から六十八名へと八名(一三・三パーセント)ふえている。

会員総数の伸びは、この一年間に四・五パーセントにすぎなかったのに対して、このように非プレス会員の増加が一割を超えたが、それでも非プレス会員が会員総数のなかに占める割合は一二・八パーセントで、当クラブ会員の八割七分強はプレス会員によって占められている。

なおAP、AFP、ロイター、UPIなど国際通信社の東京支社はプ

レスの法人会員として入会しており、中国、ソビエト、韓国など十か国を代表する外国特派員も個人会員となっている。さらに十一か国の大使館報道官や国連広報センター、EC代表部、アラブ連盟東京事務所の代表または広報担当官も特別賛助会員となっており、当クラブの外国人会員は五十名をこえ、それらの機関で働く日本人職員でクラブの会員となっているものも加えると、外国関係会員は百名近くになっている。

三月に臨時総会

日本記者クラブ賞の推薦は一月末で締め切られたが、応募件数はわずか四件で、二月十二日には同賞候補推薦委員会を開いて、さらに推薦に値するものがあるかを検討する。推薦委員会で推薦された候補については、三月五日開催予定の理事会で設置される選考委員会で審議

し、さらに四月に開催予定の理事会で受賞者を決定したうえ、五月の通常総会で授賞することとなっている。

また二月十九日には総務委員会が開かれ、昭和五十七年度の事業計画ならびに予算の編成方針を検討、さらに三月五日の理事会で審議ののち、三月十七日に開かれる臨時総会で決定の予定である。

冷房強化工事を実施

毎年夏になると記者会見室の冷房が利かず、とくに満席となりテレビのライトで照らされたりすると、スピーカーが汗だくになるので、二月十三日から三月七日まで、約七百万円を投じて冷房強化工事を実施することになった。

二月一日現在の会員状況

法人会員	一四二社
基本会員	六一六人
個人会員	九五九人
法人・個人賛助会員	五六社
特別賛助会員	一六五人
名誉会員	六八人
計	一九八社、八一九人

とっておきの話

あがる
との戦い

有馬 真喜子

「まだ、あがりますか」
とよく聞かれる。テレビで顔出しのニュースを担当してそろそろ十四年になるが、それでもまだ、テレビでしゃべるときにはあがるか、という問いである。

「もちろんです」

と私は答える。

相手の反応はさまざまで、「そうかなあ」と疑い深そうな顔をしたり、「やっぱりね」と安心したような表情をしたり、いい年してすっかりしろよ、といったような口元をしたりだが、なんといわれどもなんと思われても、私はやっぱりあがる。ほんとうである。

ニュースの本番の前。動悸が速くなり、声がうわずってくる。ス

タジオへ急ぐ間、頭の中は原稿のことだけ。「一項目目で押したら、二項目目のあの部分で十秒切れる」

「挨拶は参議院で、演説は衆議院で」などと考えながら走るように歩いているから、途中で出会った人から「この間はどうも」などと声をかけられても「ああ」なんて、うわの空でそっけなく返すばかりである。ひとは、それが異常状態の表出の一現象だなどとはわからないだろうから、なんて愛想のないヤツだと思いうちがいない。だが、本人はそれどころではないのである。ノドがからからになる。やたらに水が飲みたくなる。顔の筋肉がつっぱって鉄仮面のようになってくる。トイレに行きたくなる……。十四年間、あきもせ

ずにそれをくり返している。

肩の力を抜いて。首でも手でもいから体を動かして。そうすればぐつとろくな気分になるとものの本にも書いてある。十分承知しているのだが、あがっているときは、だいたい、それを思いだもしない。だから、顔も手も足もこわばったまま「こんにちわ」としゃべりだすことになる。

◇

あがる、とろくなことがない。失敗は数知れないのだが、いま思いだしても顔赤らむような思いのものもいくつかある。

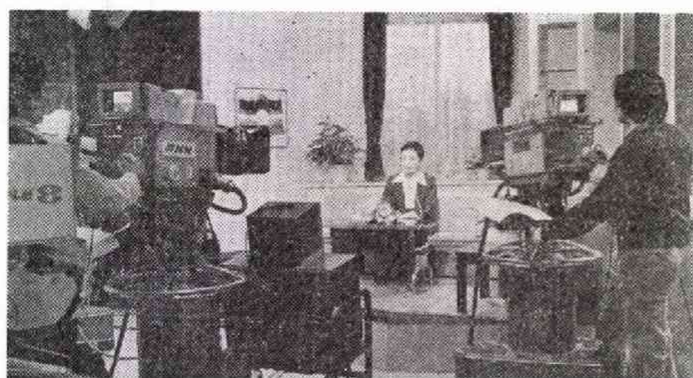
周恩来首相が亡くなったときのこと。速報が入ったのはニュースの前だった。「さあ、たいへんだ」。ここで完全にあがったにちがいない。「周恩来首相が亡くなりました」。そこまではよかったのだが、以下、周首相というべきところを、私はすべて「毛沢東主席」としゃべってしまったのである。マスター・ルームにいたディレクターたちは、飛びこみニュースなので素材の手当てに追わ

れてとつときには気付かなかったらしいが、報道の部屋にいた同僚たちは青くなった。「アイツ、なにしゃべってんだ!」。

私は、スタジオに駆けこんできたデスクが「毛ではない。周だ」という紙をふりまわすまで、自分が「毛主席」としゃべっていることにはまったく気付かなかった。いや、実は、紙をふりまわされても「あの、人、なにをいってるんだろ!」くらいで、自分が間違っているとはゆめ思わなかったのである。そんなわけで「お詫びして訂正します」はすっかり遅れてしまった。

放送を終わって、ことの重大さにあらためて愕然とした。視聴者の方々に対する責任はもちろんだが、当時、日中関係は今日のような和気あいあいの状態ではなく、中国も四人組が権勢をふるう堅い姿勢の時代だった。国際問題になりかねない、と私はおそれおののいた。

事態は、一人の同僚の好意で、なんとか収拾することができた。



二台のカメラの威圧の前で、にこやかな有馬さん

担当するクラブでニュースを聞いて「いけない」と思った記者が「大使館へあやまりに行きますか」と電話をかけて来てくれたのである。彼はかねがね中国の人々と親しく、すでに何度も訪中していた。

私は彼に連れられて中国大使館を訪れ、あやまって伝えたのは決して故意や悪意でないこと。私が

あがつていて、とんでもない間違いをしたのであることを一生懸命説明した。大使館の人々はニュースを見ていた。初めは堅い表情だったが、やがて「あやまちはだれにでもあることです。了承しました」といつてくれた。私はほんとうにうれしかった。そしてそれとともに、プロなら、二度と「あがつていて間違いました」などというお粗末ないいわけをしないですむよう、覚悟しなければならぬと殊勝に思った。

しかし、その後も私はいかかわらずあがり、ミスをしているのである。本番前に「こう間違っではいけない」と思ったり、いわれたりすると、「いけない」ほうの印象が強く、あがつているとその通りに間違える。淡谷まり子さんという弁護士さんがいる。彼女を紹介する必要があったとき、淡谷のり子さんといっではないかと思ひ、まわりも「のり子さんというなよ」といった。本番。みごと「淡谷のり子さん」。私は瞬間的に「しまった」と思ひ、報道の部屋では「やった」と歓声があがつたそうである。

地方や中継現場から、送られてくるべき画像がとどかず、一分間近くもぼんやり画面に顔をさらしていたこともある。何かいおうと思うのだが、初めのころはとくに、声を出すとおかしなことをいいそうな気がし、声が出てふるえていたり、あごがぐくぐくしたりで醜態をさらした。

◇

数々の不名誉な経験を経て、私はわが身に「あがらない」おまじないを施すことにした。きっかけは、三遊亭円楽師匠から、落語家のおまじないを聞いたことである。落語家も高座にあがるときはあがる。だからたとえば、手のひらに「人」という字を書いて舌でペロッとなめて、

「さあ、人を飲んだ」と自己暗示をかけてから出る人が少なくないという。あの泰然自若とした落語家でもそうか、と私はいささか安心して、さっそく真似をすることにした。少し落着くような気がした。

また、NHKアナウンサー・酒井広さんの話も役立った。人前で話

したりするとき、あがるのはだれでも同じである。それは羞恥心を備えた人間に特有の現象で、動物にはあがるというのではない。プロとアマのちがいは、いったんあがつたあと、どのくらい速く元の状態に回復するかの差で、速く自分を取り戻す法を身につけるのがプロだ。そんな趣旨だった。「あがるのがふつうよ」と気を楽にし、私

十四年前より少しはましになったかどうか自分ではわからないが、あがるのが少なくなることを求めて、永遠の戦いをつづけていることは事実である。ゆつたりと画面に登場なさっている諸氏はどうなのだろう、と、ときどき思う。

有馬氏略歴 昭和八年生まれ。津田塾大学英文科卒。三十二年朝日新聞入社。横浜支局、学芸部記者をつとめ、四十三年三月退社。同年十月からフジテレビのニュースキャスターとなる。「奥様ニュース」を担当。

対外経済摩擦は、日本の市場開放努力にもかかわらず、あまり弱まりそうにありません。六月のバリ・サミット(先進国首脳会議)が、この問題についてのことし最大のヤマ場になる、と思われませんが、さきごろ米国で開かれた三極通商会議に出席したあと、レーガン大統領はじめ米政府首脳と会談してきた安倍通産相は、当クラブでの講演(一月二十六日)で、「バリ・サミットが決着点となるよう問題点を整理し、タイムスケジュールを決めて対応していきたい」と、摩擦緩和への意欲を示していました。

関税引き下げの前倒し、非関税障壁の改善など、すでに打ち出されている市場開放措置に次いで、残存輸入制限品目についても、できるものから撤廃していく、というところでしよう。こうした一連の措置によって拡大する輸入量は大きくはなくても、その心理的な政治的効果は決して小さくないはずだ。しかし、経済摩擦は基

シリーズ研究会

米欧経済と日本

貿易摩擦の底にあるもの

本的には、世界各国が経済的困難に見舞われているなかで、日本が相対的に良好なパフォーマンス(成果)を示していることからきているわけだ。基本的な摩擦解消のためには、米欧経済に立ち直ってもらわなければなりません。

そこで、「米欧経済と日本—貿易摩擦の底にあるもの」(仮題)という

テーマで、シリーズ研究会を開くことにしました。目下、企画委員の広瀬、太田、今、ヒルシャー、平田の五人で具体案をねっています。二月中にスタートし、バリ・サミットまでに、ひととおりの勉強を終えたい、と考えています。ごく大ざっぱに言えば、①米欧経済の現状と見通し②日本の対応③総まとめ、という構成になります。このうち、米国に

ついては、レーガノミックス(レーガン経済政策)に焦点をあてて、斎藤精一郎立教大学教授に分析していただくことにしています。

欧州については、EC(欧州共同体)内部の相違点をえぐり出しながら、全体像を明らかにしていくような講師をさがしているところだ。日本の対応については、

実際に対外折衝に当たっている外務省の深田宏経済局長にお願いしてあります。また、国内的な対応の点については通産省の天谷直弘顧問にご出席を願うつもりです。

そして、最後に、世界自由主義経済(先進国経済)の再生は可能か、という角度から、しかるべき講師にまとめていただく、ということにしたいと思っています。

なお、この研究会を補う形で、在京の大使、商務担当官などの話を聞く機会も設けていきたいと考えています。

(企画委員・平田真巳)

第86回企画委員会

昭和57年1月13日(水)
日本記者クラブ大会議室

一、56年予想アンケートの結果

事務局から56年の予想アンケートの結果を報告、応募二七三人中ただ一人十問正解のNHKの橋本忠正会員を、新年互礼会の席上表彰、記念品を贈ることとした。

一、研究会「米欧経済と日本」

平田委員が「米欧経済と日本—貿易摩擦の底にあるもの—」の進め方について概要を報告。平田、広瀬、太田、今、ヒルシャーの各委員を中心にさらに詳細をつめ、二月に第一回を行うことにした。

一、通常総会記念講演の講師

通常総会(五月)の記念講演のテーマと講師について意見を交換した。

一、報告

事務局から、二階堂進自民党幹事長、桜内義雄外相、安倍晋太郎通産相を招くべく折衝中であり、また、今春、訪日が予定されるミッシェラン仏大統領、趙紫陽中国首相への招待状を、それぞれの大使館の担当へ届けたことを報告した。

出席 藤村委員長、本島、石丸、太田、

宮本、広瀬、平田、高野、梅本、藤川、鈴木、浅野、ヒルシャー、今、村野の各委員。

減税には身代り財源

渡辺美智雄蔵相は、新年度予算案作成の経緯を、乱調気味のミッチー節で奔放に解説した。

その中で、五十八年度の所得減税実施へ向け、身代り財源の検討をしていることを明らかにし、その際、高額所得層に重すぎる現行累進課税を見直したい意向であることを示唆した。

質疑で、五日の初閣議での蔵相の商社員悪玉論の真意を問われ、「一般論を述べたまでで、商社と特定してない。過剰反応しないでほしい」と防戦。(8日(金) 昼食会 司会・広瀬一郎企画委員 出席・一四八名)

五・三%成長は必要

宮崎勇経企庁顧問は五十七年の経済見通しについて「後半にかけてだんだんよくなる」と述べ、理由として①安定している物価②交易条件の改善(輸出価格が

上昇し輸入価格安定) ③在庫調整の終了 ④低い金利水準の四つをあげた。

また、経済成長率については、十五民間経済研究所の単純平均三・八%なら、日本経済は失業の増加を許容するか生産性をおとすかの選択を迫られ、国際収支は約一八〇億ドルの黒字を招く結果になるとし、政府見通し五・三%の達成の必要を説いた。(11日(月) 昼食会 司会・平田真己企画委員 出席・九〇名)

過度の単純化危険

「現実の国際経済は複雑なので、硬直した南北モデルは有効性を失っている」と、A・W・クローセン世銀総裁。

世界経済を八つのセンターに分け——西欧、北米、日本、東欧、中東産油国、中進国、中国などアジアの人口急増国、サハラ以南の極貧国——その特徴に触れ、多極構造の中の個別要素を的確に把握することの重要性を力説した。(14日(木) 昼食会 司会・太田哲天企画委員 出席・六九名)



渡辺 蔵相



宮崎 経企庁顧問



クローセン世銀総裁



鈴木 首相



安倍 通産相



船盛京都セラミック社長

日韓打開へ意欲

鈴木善幸総理は、質問時間にも食い込んだ講演の大半を国際問題に当てた。

特に注目されたのは、難航している日韓の経済協力についての発言で、総理は「高級実務者会談で話し合いは軌道にのった」と評価した。さらに一、二回の実務者会談を積みあげた後、外相会談、首脳会談へもって行きたい、との積極的な意向を示した。(19日(火) 昼食会 司会・若松信重理事長 出席・二二八名)

ハダで感じた貿易摩擦

安倍晋太郎通産相は、三極通商会議及びレーガン大統領はじめ米政府首脳との会談について報告した。

貿易問題で、米国の状況(特に議会)がきわめて切迫していると、通産相は今後の対応として①一月末にNTBの改善と苦情処理機関設置を仕上げ、米、E

Cへ説明のため議員団派遣②残った問題は江崎委員会で引き続き検討③制限品目は米、ECの要求リストを検討し、出来るものと出来ないものを早急につめる——とのシナリオを示した。(26日(火) 昼食会 司会・広瀬一郎企画委員 出席・二九名)

夢多い「新石器」

ICと共に電子産業隆盛のきめ手となり、いまだメタルとプラスチックの間を埋める、材料革命の担い手として注目を集めるフアインセラミックス。

「テクノロジをロジカルに追求しても常識の範囲にとどまる」と主張する、船盛和夫京都セラミック社長の話には夢がいっぱい。(28日(木) 研究会「新技術」 司会・本島宏企画委員 出席・六八名)

先月のクラブゲスト

82しんねん懇親会

橋本忠正会員ただ一人満点

56年予想
アンケート

恒例の新年互礼会員懇親会は一月十三日(水)午後五時三十分から、十階プレスセンターホールで催された。

ことしの出席者は約二百九十人。これまでの最高記録である。理事会の決定で今回初めて招待した外人記者クラブからも役員六人が顔を見せていた。昭和四十七年一月に、初めて現在のような新年互礼会が開催されてから数えて十一回目、会員が最も多く一堂に会するクラブ行事として完全に定着したようだ。

◇……………◇

開場後十五分、すでに会場は二百人を越える会員でBGMもよほど耳をすまさないで聴きとれない。会員同士の新年のあいさつ、にぎやかな歓談が続く中で、若松理事長のあいさつ、ついで『昭和56年予想アンケート(第九回)』の結果が発表され

た。

最高得点は十問全問正解の橋本忠正会員(NHK)ただ一人。この職業上の輝かしい奇蹟(彰状の文言)に対して、藤村企画委員長から表彰状と記念品が贈られた。

今回の予想アンケートの平均正解率は59・3%、史上最低を記録した昨年について低い方から二番目。それだけに橋本会員の快挙は「輝かしい奇蹟」と映じたかもしれない。

また、昨年、八回目にして初めて出現した特別賞受賞者(全問不正解者)は、残念ながらことしは該当者なし。全問正解は橋本会員が十一人目であるが、全問不正解は「予想アンケート」九年の歴史でただ一人だけ。意図的に全問はずれをねらうのは相当勇気ある行為ということかもしれない。

さて、『57年予想アンケート』には理詰めでは予測し難い問題もある

が、そこはそれ座興としての運試し、どんな結果になるでしょうか。

◇……………◇

お楽しみの「福引」では、賞の抽選に橋本忠正会員、千葉雄次郎会員、高田秀二会員の手をわずらわしたが、待ち時間が多くなかなかの重労働、途中から事務局職員がカード引きを代行することになった。

ことしは昨年の繰り越しを含めて一等賞のポーター・タイプライターが二本、関昭雄会員(法人賛助・BASFジャパン)と村上孝止会員(新聞協会)に当たった。

◇……………◇

ところで「料理不足」について。「事前に出席申し込みをいただいた方は百七十五人、これまでの経験で当日は二百五十人程度と見込んで料理を注文しましたが、この読みがはずれまして……。来年こそはお叱りを受けたいように準備したいと思いますが、会員の皆さんもなるべく事前にお申し込みしていただけるよう「ご協力を」というのが事務局からのお詫びとお願いだった。

第9回「予想アンケートの結果」(昭和56年1月16日実施 応募総数 273)

質問	正解	正解率
1. 内閣改造が行われて、二階堂進氏が入閣するか。	しない	48.7%
2. 2年連続して、お米の生産が平年作(作況指数 100)を下回ることになるか。	なる	35.9%
3. 東京外為市場のドル相場が、年末に1ドル200円を割るか。	割らない	35.9%
4. レーガン・ブレジネフの米ソ首脳会談が行われるか。	行われない	67.4%
5. ソ連軍のアフガニスタンからの撤退が実現するか。	しない	91.6%
6. 1万円より高額の新券発行決定の発表があるか。	ない	89.4%
7. 1988年のオリンピックを、名古屋で開催することが決定するか。	しない	41.4%
8. 反復使用可能な有人宇宙船・スペースシャトルの実験にアメリカは成功するか。	する	54.2%
9. プロ・ゴルファーの青木功選手が四大ゴルフトーナメントのいずれかで優勝するか。	しない	83.2%
10. 巨人軍の原辰徳選手は年間20本以上のホームランを打つか。	打つ	45.4%

その場の「カン」で楽しむ

まことに光栄、率直にうれしい

橋本忠正

一年後に事態はどうなっているだろうか？ ニュースを予想して当てようというアンケートの企画が、十年前にはじめて日本記者クラブで実施された時には、これは面白い、楽しい企画であると思った。政治・経済・社会・国際・文化・芸能・スポーツ等の広い分野にわたっての予想アンケートは、おそらく世界でも、はじめてではないかと思った。外国でこの種のことを聞いたことはない。

このユニークなアンケートも、まあジャーナリストの頭の遊び、知的なゲームと言っては失礼かもしれないが、極めて軽い気持ちで、毎年これにに応じて来た。それと同時に何回かやっていたら、そのうちに一回くらいは入賞のチャンスが訪れてくるかもしれないという、漠然とした期待もあった。

ところが、日本記者クラブから『昨年行った第九回予想アンケートに見事入賞しました。しかも満点です』と電話で報せを受けた時には、はじめはちょっと信じられなかった。まさか、こんなに早く入賞のチャンスが訪れるとは思っていなかった。

というのは、毎回アンケートに答える時には、問題を見てあまり深くあれこれ考えないで、その場のいわゆる「カン」で、どちらかに丸をつけていたので、昨年の問題がどんなものであったか、すっかり忘れてしまっていたからである。ただわずかにスポーツの問題の中に、巨人の原選手が二十本以上の本塁打を記録するかどうかがあり、これは期待通りで、昨シーズン終了後、この問題だけは少なくとも当たったと、当時気をよくしたことを思い出した点と、

名古屋オリンピック大会が開催決定に至らなかったことを思い出した程度で、甚だもつてたよりない限りであった。

その後、日本記者クラブの新年懇親会の席上で、あらためて問題と正解を見比べて、十問の予想全部が正解であったことが、はっきりした。その上、表彰状の中で、「この職業上の輝かしい奇蹟」と指摘されたことは、まことに光栄なことであり、ジャーナリストの一人として、やはりうれしいと、率直に感じている次第である。

一昨年の春以来、日本放送協会の現役を退き、現場の仕事から解放されて、暇を見つけて、これまで思う様に出来なかった本をじっくり読んだり、エッセイを書いたり、物を考へたりする時間にめぐまれるようになったことも、あるいは、今回の入賞に恵まれる機会をあたえてくれたのかもしれない。

今年は、何となく新しい気持ちで、物事に臨みたいと願っていた矢先の日本記者クラブからの表彰でもあり、大いに気を良くしている。

(NHK顧問・ABU東京事務所長)

56年予想アンケートで満点をとられた橋本会員への表彰状の全文(実物横書き)は左記のとおりです。また、記念品として英国製のクリスタル花瓶が贈られました。

表彰

橋本忠正殿

あなたは日本記者クラブの第九回予想アンケートで見事に全問に正解されました。優秀なジャーナリストの資格の一つは「的確な見通し」にあるといわれます。しかし、容易に当たらないのもまた事実であります。

あなたは二階堂氏入閣、五輪名古屋開催をナシと断じ、原選手の二十本以上の本塁打及びスペースシャトル実験に対し、肯定的な読みを示されるなど、多数の応募会員中ただ一人十問すべてに正解を示されました。

この職業上の輝かしい奇蹟を、会員一同とともに心から喜び、記念品を贈呈いたします。

昭和五十七年一月十三日

社団法人 日本記者クラブ

企画委員長 藤村邦苗



⇒ 新年のあいさつをする若松理事長



⇒ 左から外人記者クラブのレインゴールド会長(タイム)とバイル第一副会長(AP)



● きました



● 等のポータブルタイプ(Fジャパン) —



小島、村松の各会員 ⇒

290人の会員が出席しました



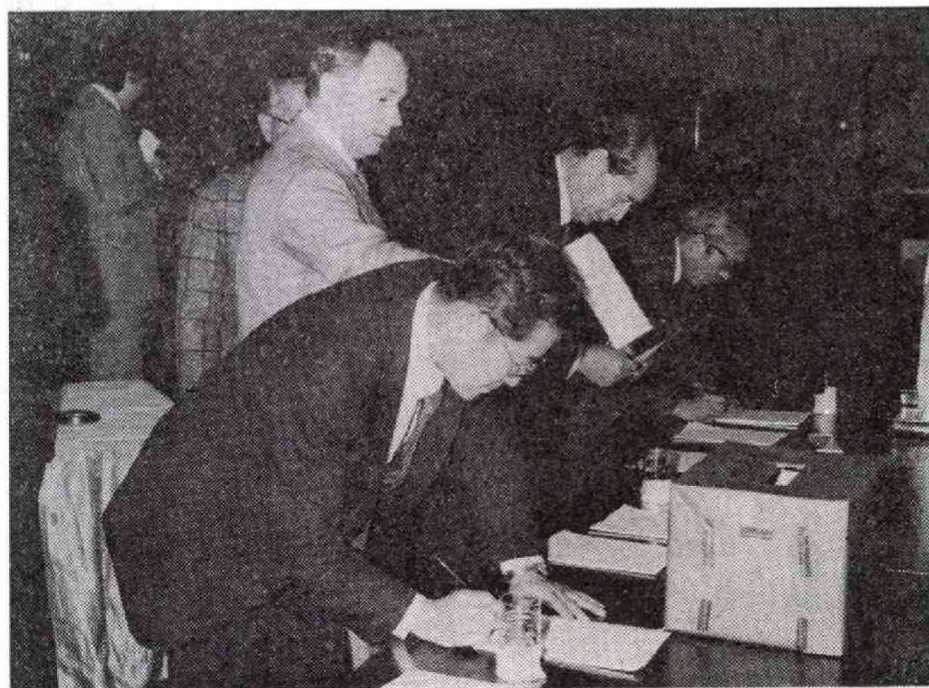
合 予想アンケート満点で、表彰状と記念品を受ける橋本会員（左は藤村企画委員長）



合 天ぷら、そば、寿司の屋台が好評で、身

「福引」の景品（例年どおり残念賞の4等は全員に）

- 1等 オリンピア・ポータブルタイプライター（2点）
- 2等 花瓶（大理石）、旅行用バッグセット、マイクロカセットレコーダー
- 3等 薩摩焼煎茶器、置時計（2点）、帝国・パレスホテルディナー券（3点）、クリスタル製卓上喫煙セット、アタッシュケース、テーブルセンター、土佐・海の幸詰め合わせ（2点）、ポケットティッシュペーパー（1年分・2点）



合 「ウーン、もう少し酒が入ってからのの方が冴えるかな。」
「予想アンケートを投票する山崎、ロックハイマー、泉、
広瀬の各会員（左から）」



合 「エッ、ボクの番号だ。」
ライターを当てた関会員
左から山内、関口、石丸、

東京支社訪問

秋田魁新報

「いやア、暮れも正月もないんですよ。支社編集部といつてもなにせ二人しかないもんですから……」

と、秋田魁新報社取締役東京支社長森可昭氏は、隣の支社編集部長遠藤欽一氏に申し訳なさそうな顔。遠藤さんも「ソーナンデスヨ」とばかりにうなづく。

今年のお正月は特に忙しかつたという。全国高校サッカー大会で、秋田商高が勝ち進んだからだ。

「元旦から仕事でした。でも、郷土の若者たちの活躍は、我々自身の手で送らなくちゃいけませんからね。正月だからって、おとそ気分にはおれません」

と、遠藤さんはカラッとしたものだ。

秋田県はスポーツがとても盛んで、雪国にもかかわらず、屋外スポーツでも強豪県だ。やはり今年のお正月、全国高校ラグビー大会では秋田工高が準優勝した。高校野球も上位に残るし、バスケットボールの能代工高の圧倒的強さは全国的に有名。東

京でのスポーツ大会には、編集部長自らカメラをぶらさげて取材に走るそうだ。

秋田魁新報は、明治七年に遡る新聞の題号で創刊され、その後何度かの改題を経て、明治二十二年秋田魁新報となる。

創刊からの歴史は一世紀と八年に及ぶ。東京支社の本格的な活動は第二次大戦後だが、支社の拡充と共に移転を重ね、昭和二十九年に現在の銀座五丁目のニュー東京ビル三階へ。現在は森支社長のもとに営業七人、総務三人、編集二人という

郷土と出身者を結ぶ

かけ橋づくり

態勢。

「何でも屋さんですね。政治、経済、スポーツ、芝居、展覧会と、どこへでも飛んでいかなければなりません。否応なしに幅が広がりますね」

と、政治記者だった遠藤さんは笑う。出先クラブの中では、農水省、運輸

省、環境庁、国鉄などに重点を置くが、現在、秋田県出身の大臣がゼロなので、これら出先クラブ関係の取材はちょっと暇だそうだ。

秋田魁新報は地ダネ指向が特に強いそ

うで、東京でも秋田に関するものなら細かいもので拾い集める。秋田県人会は東京地区連合会をはじめ、職場単位、出身校単位、出身町村単位と大小数知れなくあるそうだ。

「戸数が百戸くらいの小さな部落の県人会もあるんですよ。そういうものまで全て必ず取材します。地元の人たちが紙面を見て『ああ、あそこあいつも頑張ってるなア』と思ってくれれば……」

と、森さんは言う。

県人会の取材に出かける時、遠藤さんはいつも秋田魁新報をお土産に抱えている。

「田舎から送ってきた品物を包んだ、グチャグチャになった新聞紙をのびして読む、という話を以前聞きましたね。それから古新聞を持っていくようにしてるんです。みんな、やっぱり郷里がなつかしいんですね。喜んでくれますよ」

支社訪問の前日の日曜日（一月十日）、たまたま秋田県立ろう学校出身の「在京秋田県ふきのとう会」が開催された。東京近郊も含め会員は二百名、当日の出席者は七〇名を超えたという。床屋さん、写植オペレーター、歯科技工士などと、技術を身につけて働いている人が多いそうだ。

「びっくりしましたね。こうしたハングルのある人たちがたくさん東京に出てきてるんですからね。我々としてもこういう人たちにもっと目を向けなくてはと痛感しましたね」

両氏とも、今年はこうした表面に出ることの少ない、地味に活躍している在京秋田県人を発掘し、紙面で紹介したいのだと胸の内を語ってくれた。

東京支社は、年一回行われる在京秋田県人の「郷土訪問」の窓口にもなっている。また、遠藤さんの「お土産」作戦が功を奏してか、東京で秋田魁新報を定期的に読みたいという人も最近は何人か出てきたそうだ。

こういった「呼び水」づくりは東京支社の役目だと、両氏とも言う。それを精一杯やっているという自負が、言葉の端々に感じられた。

秋田魁新報は創刊百周年を記念した昭和四十九年に、元旦号を「百ページ」にして祝った。以来毎年元旦号は百ページ以上を組んでおり、今年の元旦号は百二十四ページ。これはもちろん全国一だという。

（長谷川）

ずいそう

ニュースにならない国、しない国

台湾というところ、「いいだろう、おもしろいだろう」という発想しかないようだ。韓国についても同じイメージを日本人は持つようだが、どうやら今年に入ってから、マスコミの韓国扱いが変わって来たようだ。

一月そうそう、某テレビ局など、突然「日帝三十六年」の構成フィルムを流して、日本の罪悪史をしつこく、あばき出して見せた。

元来、軟派ものの専門の番組であつただけに、視聴者は目のフォーカスを合わせるのに、とまどつたに違いない。

いまの台湾は、北京との関係もあつてか、ひところの韓国以上に、日本ではニュースにされない国、しない国のトップになつてゐる。もつとも、週刊誌が特集する、買春ツアーの話、それに犯罪者逃亡の追跡記事になると、話は別である。あのキャッシュ・カード

偽造犯人、近畿相銀の石田公二が、台湾当局に捕つた時など、日本のマスコミのリポーター、カメラマンが二十数名も、台北にどつと押しかけ、行政院新聞局をあわてさせた。(筆者はたまたま、この時、訪台していた)

あわてさせたのは、その人数だけではなかつた。一有力紙が、新聞人にはまことに不名誉なルール違反をやらかした。台湾の定めで、留置人

複雑で屈折した日台関係

黒木寿時

(個人D会員)

の写真は、いっさい撮れないことになつてゐたのに、「石田の兄」とか「弟」とかいって、監視の目をのがれて、石田の写真を本社に送つてしまつた。例のとおり、記者団と当局とのゴタゴタ騒ぎとなつたが、「国際電話」で、写真掲載はおさえられた。

この事件に対して、台湾当局は、相手が日本の一流紙であつたことから、遠慮したのかどうかは知らない

が、「日本の新聞は、アメリカ以上に競争が激しいのです」と笑ひでごまかしてゐた。この事件は一例としても、台湾当局は、ことほどさうに、日本には気を使つてゐる。

台湾の対日感情が、いいとか悪いとか、ということとは、問題にならないのである。というのは、国民のすべてに「日帝三十六年の恨み」が滲み込んでいる韓国とは違う。ただ、四十億ドルになんかとする対日貿易の赤字について

では「親分日本」として、もう少し気を使い、面倒を見てほしい」という不満をもらつてゐる。呉恵然

・行政院経済建設委員会統計画処副委員長は「不満があるなら具体的に示してほしい、と日本側はいうが、それがどうということより、全般的な日本側のモラルの点だといいたい」と語つてゐる。

台湾の経済的強化は、アジアの安定につながる。日本とは国交が絶えてはいるが、軍事的には、アメリカを含めて、デ・ファクト(事実上)の

防衛関係にあるのだと見てゐる。「台湾は卵を産む鶏である。殺してしまつては卵が産めない」(元外相、国家安全会議秘書長・沈昌煥氏)というが、「ひとつ北京の合作提案を受けて見ますか。これならニュースになりますからね」と、笑つて見せた。

ちなみに、一九七九年、ピーク時の日本人観光客の六九万三、六七一人も年々減り、昨年は四九万八、一八八人。減つた分は買春ツアー族とか。もつて銘すべし。



台湾・行政院前に立つ黒木会員

基 会 十 年

堀 川 敏 雄

(個人D会員)



当日の珍事は、とかく斯道奨励に回る当五段が、どうした風の吹き回しか五戦全勝し、箱書きのある京焼の花瓶を頂戴したことである。二位の山田幸男五段(新聞協会・四勝零敗)が中座して、決戦に至らなかったのが幸いしたようだ。三位は富谷和男五段(デリー東北)、四位は宮沢昭二郎二段(日本

昭和五十一年の夏、初めて明文の同好会規約を作り、大軒順三・六段を会長に推戴した。以後原則として毎月一回、土曜日の午後、月例会を開き、年に二回は賞品付きの大会を催している。もともと、しばらくは創立以来の世話人(大日向一郎、山根修および筆者)が手分けして動員に当たった。つまりクラブ事務局から案内状を送送してもらったあと、直接電話を入れたのである。その後は新聞協会の強手竹田勇三、山田幸男、村上重美の各氏が、次々に常任幹事として献身されたおかげで、ハガキ一枚で盛会が保証される安定成長期に入っている。村上さんはいま日本記者クラブの総務部長だが、五十四年春からずっと同好会を運営されている。

寿四段への挑戦権がかけられ、日本海事の宮沢昭二郎さんが優勝した。宮沢さんの挑戦手合は同年八月、例会場に金屏風を引き回して行われ、五子局ながら挑戦者が金星を挙げた。その熱戦譜は当時の東タイ紙上でご覧頂きたい。その後もプロ棋士(おもに女流)を定期的に招いている。

基会のはみもの豊富で、品よく、にぎやかである。空蟬の巻の光源氏よろしく対局風景をうかがうこと数か月、ついに入会された方々もいる。例会費は五百円。強剛はもちろん級位者も歓迎。クラブ事務局へご連絡頂ければ例会通知を差し上げます。

●同好会● 一月三十日(土)、

なお、この機会に、同好会の創設と維持にご尽力下さった歴代のクラブ事務局長、前田雄二、春原昭彦、藤本有典、笠置正明の各氏、ならびにクラブ職員の皆さんに厚くお礼を申し上げます。

新年初の例会を開催しました。雪のあと厳寒の日だったせいか参加者は九人、おもな成績は次のとおりでした。白井敏之二段(共同)四勝一敗、川本和孝二段(D)三勝二敗。

次回例会は二月二十七日(土)。

基会十年の間に会員はめきめき腕を上げた。銘々伝までご紹介できないのは残念だが、出世頭は小林淳宏氏(時事通信)である。晩学の九級から四級へと五目も上がった。いろいろ趣向も凝らされた。五十二年の春季大会では、東タイ徳間康快社長の好意で時の女流本因坊、小林千

また、三月二十七日(土)の例会は大軒さんの追悼基会として開催します。藤沢朋斎九段が特別参加してください。終了後、軽い夕食でもとりながらの懇親総会として、今後の会の運営などについて話し合いたいと考えています。

海事)。

囲碁同好会の大軒順三会長が急逝された。大軒さんは発会以来の常連かつ最高位者(六段)、棋理に明るく、コンコンと考え、読み切って打たれるきびしい基風で教えられるところが多かった。ご密葬の一月三十日が同好会の月例会に当たり、会員一同、謹んでご冥福をお祈りした次第である。(追記)

囲碁同好会が盛況である。旧臘二十六日の忘年基会には、大会新記録の二十四人が集まって、ボトルン本を空けながら手談、舌戦の火花を散らした。

古い会報を繰ってみると、囲碁同好会が発足したのは昭和四十六年の七月である。高田秀二理事長杯など賞品を山のようを用意して、第一回の会員囲碁大会を開いたのが翌四十七年の二月二十六日。第二回大会は四十九年三月、第三回大会は五十年八月で、十九人参加と記録されている。これらの大会の合い間にも基会とはたびたび開かれ、当時棋界一の美人といわれた児玉幸子二段にみんなで教わったりもしたが、例会の維持は正直いって困難だった。



▼今年前半の国際政治最大の目玉はイスラエルがエジプトとの平和条約で約束した「シナイ全面返還」を、四月二十五日に実行するかどうかが。去年十二月十四日、ゴラン高原併合という暴挙を敢行しただけに、予断は禁物。もし「ノー」だったら、中東情勢の大化けは必至。それでは、いまのうち取材しておこうと、一月二十三日、急遽飛び発ったというわけ。

(米谷健一郎)

紹介会

6日△ソ連・東欧記者会——ポリャンスキーソ連大使を送る会——(共同) 白田昭三郎会員 7日▽シッピング・アンド・トレード・ニュース賀詞交換会(東京ニュース 鶴田収会員) 11日▽杉本良吉判事を送る会——各社司法記者(大野正男会員) 12日▽新聞協会会長招宴(協会 江尻進会員)▽広告掲載基準事例研究会(協会 桂敬一会員) 13日▽新聞通信調査会、同盟育成会、同盟クラブ新年互礼会(殿木圭一会員)

▼陳弘、姜殿銘の両記者が一月十八日帰国し、現在、中国の常駐記者は左記のとおりです。よろしく願います。

▽新華社 趙毅、吳学文、張可喜、刘文玉、苗勃生、王守榮(休暇)、俞宜国(休暇)▽人民日报 陳泊微▽光明日報 蔣道鼎▽北京日報 駱為龍▽北京周報 李德安▽北京放送 方宜▽文汇报 劉宗孟▽中国青年報 王大軍。(吳学文)

▼名古屋とシドニーの都市提携一周年を記念して行われた、シンボルマークのデザイン・コンテストで、石川稔子さん(名古屋市中区)の作品が最優秀に決定しました。

▽工務委員会新年会(協会 権田萬治会員) 14日▽東洋工業記者会——新車記者発表(若森進会員) 16日▽日本繊維対談——筑紫哲也、松下正剛(星川俊三会員) 18日▽広告料改定説明会(高知新 山本幸雄会員)▽テレビ大賞審査委員会(東京ニュース 田中耕蔵会員)▽日本ゴルフ会記者発表(日経 赤須通明会員) 19日▽新年名刺交換会(FPC 河村欣二会員) 20日▽「ヤクルトみんなでコーラス」民放祭優秀賞受賞祝賀会(文化放 斎内祥三会員) 22日▽徳島クラブ懇親会(徳島新 谷田匡会員)▽正論審査会(サンケイ 川中子真会員)



ゴルフの会

第三十三回ゴルフ会は次の要領で開催されます。

日時 三月二十六日(金) 午前九時三十分 アウトスタート
コース 都留カントリークラブ
新宿駅西口(富士銀行前)とゴルフ場

▽ロス五輪ジャパンプール——NHK、TBS、NTV、フジTV、テレビ朝日、テレビ東京の報道局長(田中武志会員) 25日▽TVKナイター説明会(テレビ神奈川 神名玲二会員) 28日▽郷土紙連合(陸奥新 泉嶺会員)▽英文編集長会議——毎日、読売、朝日、日経、ジャパタイムズ、日経、NHK、共同、東京ニュース(東京ニュース 安田繁会員)▽山田一郎氏出版記念会——「寺田寅彦覚書」(共同 西山武典会員)
(会員がクラブ施設を利用して行った会合の主なものです。一月の総回数は八七回でした。カッコ内は申し込み員名)

同作品は、応募百五十三点中から選ばれたもので、名古屋の頭文字Nとコアをデザイン化したものです。

なお、昨年十二月四日(金)桜ヶ丘ゴルフクラブでの第三十二回ゴルフ会には二十二名の会員が参加、成績は次のとおりでした。

優勝 村上重美(事務局)NET70、二位 西井武好(D)71、三位 斎藤貞志(岩手日報)71、四位 金巖(毎日新聞)74、五位 楓元夫(中日新聞)76、BB 嶋袋浩(琉球新報)、BG 鹿島茂男(日本工業)。



グラスを手に別れ会見(ポリャンスキー大使)

プロフィール

一月一日付、二月一日付で入会した個人D会員、法人・個人賛助会員、特別賛助会員の方がたです。

第一企画株式会社 一九五一年設立。

広告代理業務ならびに企画制作、マーケティングリサーチなどを行う。昨年十一月日比谷国際ビル内に本社を移転。

住所 東京都千代田区内幸町二―二―三

日比谷国際ビル九、十、十一階

電話 五九五―一三一一

第55回会員資格委員会

昭和57年1月13日(水)
日本記者クラブ小会議室

二月一日付の入退会を審議

出席 伊藤、赤松、滝沢、越智、玉木、
東、山田、泉の各委員。

第26回会報委員会

昭和57年1月13日(水)
日本記者クラブ応接室

十二、一月号の会報について意見交換の後、二、三月号会報の編集内容について協議した。

『とっておきの話』の執筆は、ゲブハルト・ヒルシャー、広岡知男、田代喜久雄、渡辺武の各氏にお願いし、随時掲載していくこととした。

三月号の『東京支社訪問』は山陰中央新報社と決定。

〃賛助会員からプレスヘッというような〃囲みものを設けてはどうかの意見が出たが、次回詳しく検討することとした。

出席 小林委員長。桂、斎藤、東郷、中沢の各委員。

「福引き」の景品提供社

左記の会員から「福引き」用の景品をご提供いただきました。厚くお礼申しあげます。(会員名簿順)

朝日新聞社、毎日新聞社、読売新聞社、日本経済新聞社、サンケイ新聞社、共同通信社、時事通信社、北海道新聞社、秋田魁新報社、中日新聞社、北日本新聞社、山陽新聞社、徳島新聞社、高知新聞社、西日本新聞社、南日本新聞社、沖縄タイムス社、琉球新報社、日本新聞協会、日本プレスセンター、日本放送協会、東京放送、文化放送、日本テレビ放送網、フジテレビジョン、

目次

会員千八百名を超える	1
『とっておきの話』	2
有馬真喜子	
研究会「米欧経済と日本」	4
平田 真巳	
先月のクラブゲスト	5
新年互礼会員懇親会から	6
橋本 忠正	
56年予想アンケートに入賞して	7
(写真特集)	
二九〇人が出席しました — 懇親会 —	8
『東京支社訪問』	10
秋田魁新報社	
『ずいそう』	11
ニュースにならない国、しない国	12
黒木寿時	
基金会十年	13
堀川敏雄	
ビジョンボックス 会合紹介 ゴルフの会	14
プロフィール	16
事務局から	

全国朝日放送、テレビ東京、関西テレビ、サンテレビ、九州朝日放送、日本民間放送連盟、松本幸輝久、アラスカ、朝日広告社、BASFジャパン、エッソ・スタンダード石油、富士石油、ゼネラル石油、グレイ大広、博報堂、浜田印刷機製造所、服部時計店、川鉄物産、国際ビーアール、廣告社、クスタ事務機、日本電気協会、日本コンベンションサービス、日本新聞インキ、王子製紙、サントリ、帝人、帝国ホテル、東京瓦斯、トヨタ自動車販売、トヨタ自動車工業。

会見室の冷房強化工事を行います

記者会見室の冷房強化工事を、二月十三日(土)から三月七日(日)まで行います。

この間、記者会見室は使用出来ません。また、工事のため音がしたり、機械搬入のためご迷惑をおかけすることがあるかもしれません。一時期ですが、九階のお手洗いが使用出来なくなり、十階または八階のお手洗いを使用していただかなければなりません。

会員のみなさんに、いろいろご不便をおかけすることになります。クラブにとっても重要な記者会見を、少しでも快適に行うための改良工事ですので、よろしくご協力くださいますようお願いいたします。

会員の著書

(ご惠贈いただきました)

イラン革命の内幕 佐藤紀久夫 訳
 中地熊造伝 芳賀 綏
 角榮上等兵とヒトラー 伍長 今井久夫
 ビジネスマンの英語 村松増美/小松達也

寄贈書

大志と野望 北海道放送
 ウィリアム・クラークの足跡をたずねて
 エナジー対話 エッソ・スタンダード石油
 あくがれてこし丘の上や 新潟高等学校六花会

計報 斎藤剛三会員(秋田放送)が一月四日も腹下出血のため、大軒順三会員(日本経済新聞)が一月二十八日心筋こうそくのため、逝去されました。謹んで両会員のご冥福をお祈りいたします。

二月の行事

3日(水) 午後6時30分 試写会『戦場の小さな恋人たち』
 8日(月) 午後6時〜8時 入江相政宮内庁侍従長夕食会 クラブ宴会場
 15日(月) 午後2時〜4時 シリーズ研究会『新技術』Ⅶ 新関暢一電々公社茨城電気通信研究所所長 クラブ宴会場

会報委員長 小林淳宏
 委員 桂敬一 斎藤吉史 東郷茂彦 中沢道明
 連絡 長谷川(事務局) 五〇三一二七二